

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 ※実施機関名、及び連携機関名（ある場合のみ）を記載してください。 福島大学大学院教職実践研究科（教職大学院）
コラボ研修プログラム	事業名：【NITS・福島大学大学院コラボ研修】 学び続ける教師コミュニティ：福島県の新たな教育実践をめざす研修プログラム
支援事業報告書	研修等名：【NITS・福島大学大学院コラボ研修】 主タイトル：主タイトル及び副タイトル ・学び続ける教師コミュニティ 2023 夏教育実践福島ラウンドテーブル ・学び続ける教師コミュニティ 2024 春教育実践福島ラウンドテーブル 主タイトル：学び続ける教師コミュニティ 副タイトル：福島県の新たな教育実践をめざす研修プログラム
	【NITS・福島大学コラボ研修】学び続ける教師コミュニティ 2023 夏教育実践福島ラウンドテーブル 開催日時：令和5年8月26日（土）10時～16時 開催場所：福島大学（福島県福島市金谷川1番地） 参加人数(総数)と参加者の属性：（145人）教員68人、学校管理職8人、研究者20人、障がい福祉関係者1人、行政職・指導主事19人、学部生12人、大学院生10人、その他7人 【NITS・福島大学コラボ研修】学び続ける教師コミュニティ 2024 春教育実践福島ラウンドテーブル 開催日時：令和6年2月17日（土）10時～16時 開催場所：福島大学（福島県福島市金谷川1番地） 参加人数(総数)と参加者の属性：（153人）教員67人、学校管理職5人、研究者22人、障がい福祉関係者3人、行政職・指導主事14人、学部生22人、大学院生9人、その他11人

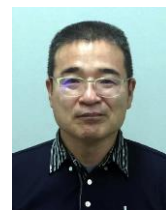
内容：

【NITS・福島大学コラボ研修】学び続ける教師コミュニティ 2023 夏教育実践福島ラウンドテーブル

令和5年8月26日午前の部では、参加者全体を対象とした基調講演が対面とオンラインのハイフレックスにより開催された。講演に先立ち、主催者を代表して宗形潤子・福島大学大学院教職実践研究科長より挨拶があった（写真右上）。その後10:10～12:00まで、岩田康之・東京学芸大学次世代教育研究センター教授（写真右中）より、「自ら『学び続ける教師』のサポートを考える－近年の政策動向との関わりで－」をテーマとする基調講演が行われた。



本講演ではまず、近年の教師をめぐる政策動向として免許更新制が廃止から研修履歴の管理に移行した経緯、日本の教育改革と教師をとりまく背景として教員免許状取得者の推移、教員養成や教員採用をめぐる動向と課題がデータや文献に基づいて紹介された。次に、想定される教師像の例として「教わり続ける教師」と「自分の学びを自分で創る教師（学び続ける教師）」が提示され、「学び続ける教師」のサポートへと話題が進んだ。「自ら学び考える」子どもと教師/教師志望の学生が主役となれるよう大学（教師教育者）は「自らの課題を発見・解決する」「『学び』の幅を広くとる」べきとの役割が提案された。



午後は対面が17、オンラインが2の計19テーブルに分かれてラウンドテーブルを開催した。

【NITS・福島大学コラボ研修】学び続ける教師コミュニティ 2024 春教育実践福島ラウンドテーブル

令和6年2月17日（土）は2023夏と同様に、午前の部では参加者全体を対象とした基調講演が対面とオンラインのハイフレックスにより開催された。主催者代表挨拶の後、野尻紀恵・日本福祉大学学長補佐・社会福祉学部教授（社会福祉士）（写真右下）より、「ヤングケアラー～見過ごされてきた子どもたち～」をテーマとする基調講演が行われた。



本講演では、はじめに「『仕方ない』を『仕方ない』ままにしておかない」「ふくしとは くだんの ぐらしの しあわせ」と方向性が提示され、愛知県のヤングケアラー実態調査の結果とインタビューの概要が紹介された。次に国の4つの支援策とともに、2つの事例を通してヤングケアラーの子どもが抱える課題が紹介された。子どもの視点で子どもが求めていることを実現、自立（自律）を支援、本人の生活は本人が決めることの三点を大事にしながら専門家・非専門家の役割分担を尊重し、支援プロセスを意識することが提案された。

午後は対面が20、オンラインが1の計21テーブルに分かれてラウンドテーブルを開催した。

成果： ※自由記述に関しては回答者が特定されないよう一部改変している。

【NITS・福島大学コラボ研修】学び続ける教師コミュニティ 2023 夏教育実践福島ラウンドテーブル

- ◆岩田康之氏の基調講演に関する参加者の声（参加者 137 人 事後アンケート 54（回収率 37.2%））
 - ・4 件法による回答では「大変よかった(78.4%)」「よかった(21.6%)」と高い評価を得られた。
 - ・教員養成に関する歴史的流れや外国との比較を分かりやすく考察をふまえて説明いただいたので、現在起きている問題（例：研修履歴）について捉え直し、これからのことについて考えを深める良い機会となった。
 - ・政策動向と合わせた話がとてもわかりやすく、おもしろかった。主体的に学び続ける、学びの道筋を教師自身が作っていけるからこそ、主体的に学ぶ子どもたちの教育につながるというお話にとっても共感した（同様多数）
 - ・「学び続ける教師」と「教わりつづける教師」の対比に納得し、お話が心に刺さった。ハッとした。（同様多数）
- ◆ラウンドテーブル参加者の声（参加者 109 人 事後アンケート 43（回収率 38.5%））
 - ・4 件法による回答では「大変よかった(88.4%)」「よかった(11.6%)」と高い評価を得られた。
 - ・自由に学べる、気づきがある、聞いて欲しいことを聞いてもらえることのよさを実感した。
 - ・いろいろな立場の人や校種の人と話すことができ刺激になった。学生や院生に負けていけない！と思った
 - ・報告をすることで自分の授業実践や研究について整理できた。教師になってよかったという思いを共有できた。

【NITS・福島大学コラボ研修】学び続ける教師コミュニティ 2024 春教育実践福島ラウンドテーブル 2/21 現在

- ◆野尻紀恵氏の基調講演に関する参加者の声（参加者 145 人 事後アンケート 85（回収率 58.6%））
 - ・4 件法による回答では「大変よかった(81.2%)」「よかった(18.8%)」と高い評価を得られた。
 - ・ヤングケアラーという用語は知っていたが具体的なことや実態までは知らなかった。気づけなかった。（同様多数）
 - ・学校として何ができるか、学校と地域、家庭との協力について考えさせられた。（同様多数）
 - ・ヤングケアラーは学級や学校にいないと思っていたが、家庭内に課題を抱える子は少なくない。子ども達を全職員、関係機関、地域みんなで見守って自己肯定感を高め居場所（活躍の場）を作っていく必要性や大切さを改めて確認することができた。焦らず欲張らず学校でできることを精一杯していこうと思った。（同様多数）
 - ・ヤングケアラーに関わっている人は誰も悪くないことを知った。心にとめて 4 月から教員になりたい。
- ◆ラウンドテーブル参加者の声（参加者 120 人 事後アンケート 70（回収率 58.3%））
 - ・4 件法による回答では「大変よかった(84.3%)」「よかった(15.7%)」と高い評価を得られた。
 - ・校種・職種など立場を超え、みんな対等に語り合える場合は貴重だ。話しやすく和やかで楽しかった。（多数）
 - ・自分の実践に関する発表が教員志望の学生の参考となり、一人でも多く教員を目指してくれるとうれしい。
 - ・自分はまだ学生で皆さんに伝えられることが少なく、申し訳なく感じたが班の皆さんが温かく自分の発言を聞いてくださったので安心できた。教員の道をやめるか揺らいでいたが、今後もっと頑張る教員になろうと強く思った。

アイデアや工夫したこと：

- ・基調講演のテーマは、福島県内の教育関係者、学部新卒院生や現職派遣院生、教職実践研究科教員、事務室職員が参加する「ラウンドテーブル実行委員会」において希望テーマを調査し、その結果を協議して検討を重ね、県内の教育課題に応え得る内容を設定できるように工夫した。
- ・「ラウンドテーブル実行委員会」と、学部新卒・現職派遣院生、教職実践研究科教員、事務室職員で構成される「ラウンドテーブル委員会」において、福島県教委と教職大学院の協働体制による運営方法を検討し、午前の進行は現職派遣院生 2 名が、午後のラウンドテーブルのファシリテーター 7 名は実行委員が担った。
- ・オンライン参加者が増加傾向にあるので、オンラインによる基調講演やラウンドテーブルが円滑に運営できるよう PC 付属ではない Zoom で使用するカメラやマイクを準備し、画像・音声の情報環境の安定化をはかった。事務室職員を含めた事務局体制を強化し、「ラウンドテーブル委員会」を中心に前日までの準備を行った。

<写真・図など>



2023 夏 基調講演（午前）



2024 春 ラウンドテーブル（午後）の各テーブルの様子

